

鷹取山自然観察会会報

2020.12.13 NO.30

かながわトラストみどり財団の植樹について

かながわトラストみどり財団の助成金により、鷹取山公園内においてコナラ 25 本、クヌギ 20 本ガマズミ、エゴノキ、ムラサキシキブ各 10 本、計 75 本を植樹したので報告する。植樹場所は図の鷹取山公園の一部である。面積は約 150 m²である。

植樹開始日の 9 月 26 日は朝から小雨であったが、会員有志でアオキ、ヤツデ、シロダモ、マダケなどが繁茂した暗い林の木を伐採し、作業を開始した。その後、毎週 1～2 回の作業を行い、伐採後のアオキなどの根をシャベルとノコギリにより掘り起こした。林の中にはキツタも繁茂し、キツタの根が縦横に走り、できるだけ根の除去を行った。根の除去は植樹後のことを考えての作業であったが大変であった。

10 月 24 日には、背負子などにより腐葉土 15 袋を現場へ運んだ。現場へは 92 段の階段があり重労働であった。その後、腐葉土 5 袋追加した。

根の掘り起こし後に土地を整地し、植樹する穴を掘り、腐葉土を入れ準備した。植樹の間隔は 1.5m とし、目安としてヤダケを立てておいた。

いよいよ 11 月 27 日に植樹をした。当日は 8 人が参加し、ポット苗と敷き藁 100 kg、水まき用のポリタンクを背負子などにより分担し運んだ。ポット苗は水を入れたバケツに浸してから、苗木を 1 本 1 本丁寧に植樹した。その後、敷き藁を被せた。

植樹当日は、かながわトラスト財団の看板を掲示し、皆で昼食をした後片づけ作業をして終了した。植樹現場は、ミズキの大木も 5 本ほどあり、夏には葉を広げて日陰をつくり、必ずしも良好な場所とは言えないが、植樹した木が大きく育つことを願っている。



図 植樹場所

鷹取山では今年になってカシノナガキクイムシによるコナラの立枯れが目立っている。コナラ、クヌギは薪炭材としての利用が行われずに大木となり、被害が拡大している。ナラ枯れを防ぐ一番の方法は、コナラなどの萌芽更新の促進であるとされている。鷹取山自然観察会は、微力ではあるがコナラなどの植樹を通じて里山の環境を守っていければと思う。

植樹に係った日数は 14 日間、作業人数は延べ 70 人であった。植樹作業に携わった会員の方はお疲れ様でした。

植樹に当たって、公園使用許可及びかながわトラスト財団の手続き等に助言いただいた横須賀市自然環境共生課及び公園管理課に感謝します。



植樹前のアオキ、ヤツデ等の繁茂



杭打ちと整地



植樹後の記念写真



アオキ、ヤツデ等の根の掘起し作業



植樹及び敷き藁



かながわトラスト財団の看板



タマアジサイに
ホソヒラタアブ
2017/9/19
鷹取山

植樹経費

かながわトラストみどり財団の助成金	コナラ等苗木	@450 円×75 本	=33,750 円
	敷き藁 100 kg		12,000 円
	運送料		23,000 円
	剪定バサミ、剪定ノコギリ各 5 本		29,480 円
	腐葉土	@880 円×15 袋	=13,200 円
	看板		5,500 円
	計		116,930 円
自己資金他	シャベル	@1,408 円×4 本	=5,632 円
	腐葉土	@880 円×5 袋	=4,400 円
	ポリタンク		2,503 円
	手押し車		891 円
	計		13,426 円

巣箱の掛け替え —2020 年 12 月—

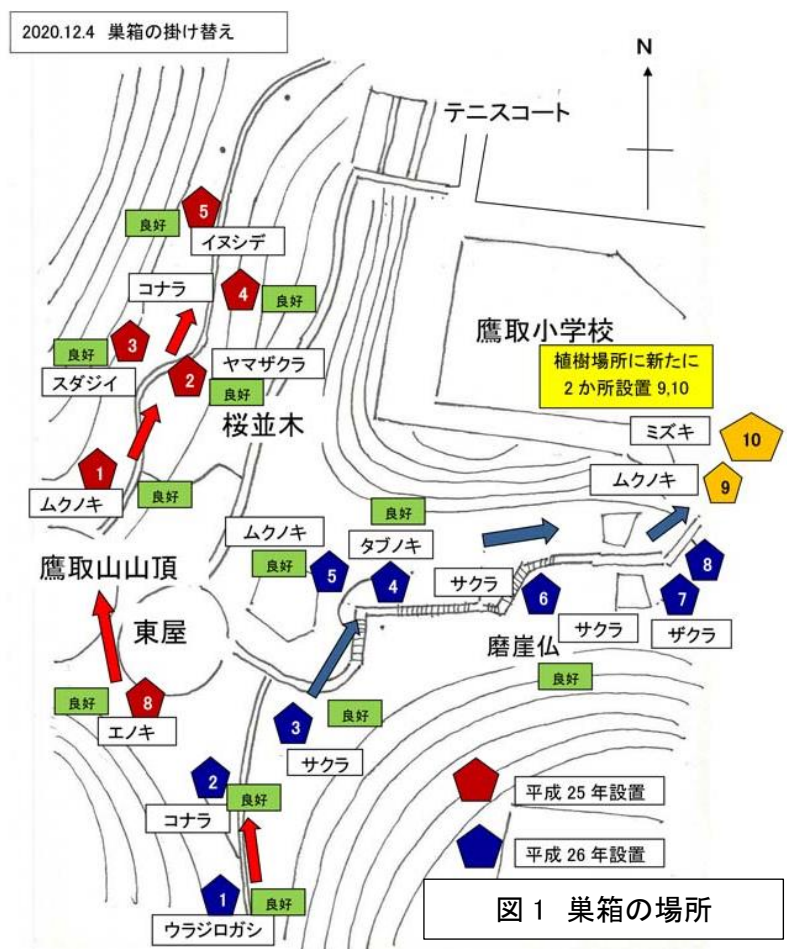
当会では 2013 年から野鳥の保護を目的で毎年巣箱掛けを行ってきた。2013 年に 8 個、2014 年に 9 個を子ども達とイベントを開催して鷹取山公園にかけてきた。現在 14 個の巣箱が掛かっていて、毎年、巣箱の掃除及び利用状況を調べ、再度巣箱掛けを行っている。

今年は植樹作業のため例年 11 月に行っていたものを 12 月 4 日に行った。10 時に鷹取山公園に会員 6 名が集まり、午後 12 時まで巣箱の掛け替え作業を行ったので報告する。

当日は 2 班に分かれて、巣箱の利用状況を調べ、巣箱の中を掃除し、再び木に掛けた。巣箱を掛けた場所は、右図のとおりである。巣箱の位置は地面から 2 メートル程度とし、周囲に枝がなく見通しがよい場所とした。天敵のヘビなどに侵入されにくい場所を選定している。

1. 利用状況

巣箱の利用状況は、鷹取山 14 個のうち 7 個が利用されていた。今年の利用率は（2019 年 42.9%、2018 年 43.8%、2017 年 26.7%、2016 年 52.9%）であった。他の地域の巣箱利用状況などを調べてみると 30～50%程



度である。毎年、利用している巣箱もあり、鳥にとって利用しやすい巣箱があるようである。なお、落下して不明の巣箱もあり、今年 2 個新規に設置した。



写真1 巣箱の設置



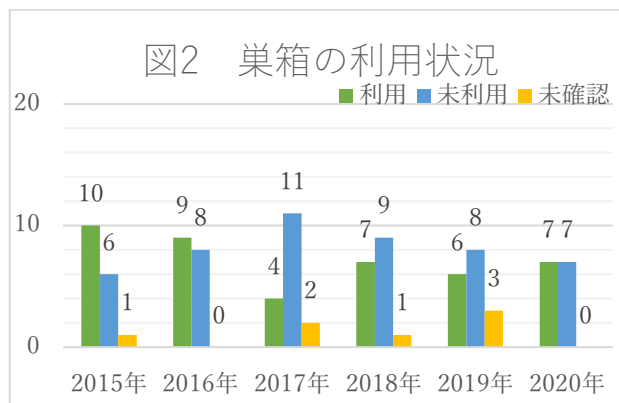
写真2 巣箱の形状



写真3 巣箱の巣材



写真4 巣箱の大穴



2. 巣箱の中

巣穴は直径 3 cmにしてあるので利用したのはシジュウカラ、ヤマガラのいずれかと思われる。巣箱は上蓋が開くように作っており、蓋を開け確認しました。写真3のように巣の材料はコケが主体であるが繊維状のものも多く見られた。写真4のように巣穴が大きく開けられたものが一つあり、リスが塹として利用したものと思われる。

来年の繁殖期には鳥たちが巣箱を利用してくれることを願っている。また、会ではモニ1000里地調査として12月から第1、3金曜日に鳥類観察を行っていく予定である。巣箱の利用状況も継続して観察していく。鳥類に関心のある方は参加おねがいします。

巣箱の掛け替えに参加した人

本多、中村、市川、三科、伊沢、北村（順不同、敬称略）



ヤマガラ 2017/2/3 鷹取山

第12回『関東・水と緑のネットワーク』について

一般社団法人関東地域づくり協会と公益財団法人日本生態系協会が主催する第12回「関東・水と緑のネットワーク」の選定地に応募し、選定されたので報告します。

日本生態系協会のホームページによると、審査にあたっては、活動地の自然環境条件のほか、活動計画の新奇性や具体性など「水と緑のネットワーク拠点としての質を高める取り組みとなるか」という観点を重視し、6拠点を選定しました。これらの選定地で活動している団体では、身近な地域にある風景や自然、そしてこれらと人とのかわり・つながりを考え、熱心に活動に取り組まれています。「関東・水と緑のネットワーク」では、右図のように、必要に応じて専門家によるアドバイスも適宜実施しながら、これら活動団体への支援をしていきます。

助成額：30万円

申請は、従来の活動を行うための消耗品類（貴重種保護のための焼杭、背負子、樹木プレート用スプリング、脚立など）、会員の方にはメール等で相談を重ねていますが自然保護について啓発用リーフレット、看板の設置を検討しています。よろしくお願いします。

図1 選定地に対する支援



図2 これまでの選定地一覧

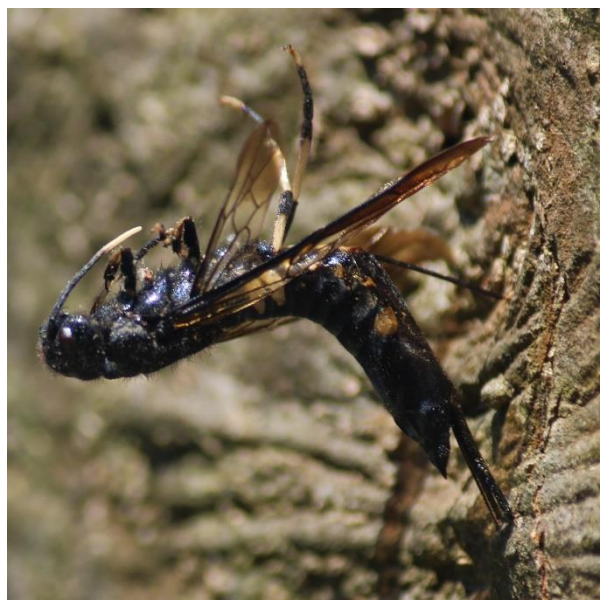


命がけの産卵

2020年も鷹取山及びその周辺で、多くの昆虫に出会いました。その中でも特に印象に残ったのは、クロヒラアシキバチの産卵でした。

5月8日の植物調査で訪れた湘南鷹取4丁目第2公園でのことでした。公園の中にあるトウカエデの枯れかけた幹に、大きな黒いハチがたくさん集まっていました。植物調査の参加者みんなで観察したのですが、集団で交尾・産卵しているようでした。とりあえず写真を何枚か撮り、帰宅してから調べてみたら、クロヒラアシキバチというキバチの仲間でした。キバチは、衰弱木や枯木に産卵するのですが、産卵管が抜けずに死んでしまうものもいるとのことでした。キバチ（木蜂）を「独脚蜂」とも書くのは、残った産卵管を脚に見立てたとのことでした。その後、どうなったか見に行ったら、本当に、産卵管が刺さったままのハチの死骸がいくつもトウカエデに残されていました。まさに命がけの産卵だったのです。

9月29日に鷹取山の枯れたエノキの幹に大きなハチが群れていました。5月に調べたので、ヒラアシキバチの産卵だとすぐにわかりました。既



クロヒラアシキバチ残骸

に産卵管が刺さったままのハチの残骸もありました。ヒラアシキバチは、ミダレアミタケというキノコの菌を卵と一緒に植え付け、その菌が木材のリグニンやセルロースを分解して、孵化した幼虫の餌になるということでした。そのエノキには、ミダレアミタケがいくつも生えていました。

原始的なハチとされるキバチの仲間も、知れば知るほど奥深いと思いました。（三科 清高）



クロヒラアシキバチ



ヒラアシキバチ



ヒラアシキバチ残骸



ミダレアミタケ

鷹取山自然観察会（ホームページを見て下さい）

HP：鷹取山自然観察会

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>

連絡先：世話人代表： 本多久男 e-mail: takatori_0721@nifty.com